

## トフルゼミナール「交換留学帰国生小論文コンテスト」受賞作品（銅賞）

松村 秋奈 （AFS67期・2020年冬出発 チリ派遣生）

私は、南米のチリに留学していた。

それまで馴染みのなかった国への留学を決めたことは、私に多くの発見と学びをもたらしてくれた。中でも印象的だったことは、挨拶の文化である。

チリの人々は、顔と顔を近づけ、互いの頬にキスをして挨拶を交わす。

日本では全く見られない光景だが、私はこの挨拶が大好きだ。

なぜなら、挨拶をするたびに、相手と自分の間にある友情や信頼による“愛”を確認できるからである。

チリに着いて初めてこの挨拶を交わしたのは、ホストファミリーと会った時だった。

その新鮮さに、とても気持ちが高揚した。

一年間の留学を経たら、「日本からの留学生」ではなく、「チリ人になった日本人」になってみたいと思っていた私にとって、初めてのチリでの挨拶は、私はこれからチリ人に近づくことができるのだという証の様だった。

チリ人に近づくということは、簡単なことではなかった。

ホストスクールでの授業はスペイン語で行われるため、日常会話さえもままならなかった私は、自分一人ではほとんど何も理解できなかった。

毎授業、近くにいる友達に説明してもらっていたが、それでも理解できないことが多く、聞き返してしまうことも何度もあった。

クラスの皆も授業を受けているため、迷惑だと思われていないか、嫌な気持ちにさせてしまっていないか、などと心配になることが多かった。

しかし、友達とお互いの頬にキスをして「Chao(バイバイ)!!」と言って家路に着く一日の終わりには、必ず「大丈夫だ、みんなは私を嫌っていない。また助けてくれる！」と直感的に感じられた。

ホストファミリーと過ごす時も同様だった。慣れない生活の中で、私は、お皿を落としてしまったり、約束を勘違いしてしまったりと、ファミリーにたくさん迷惑をかけることがあった。

その度に、怒らせてしまったかな、と不安になった。

しかし、ファミリーと頬にキスをして、「Hasta mañana(また明日ね)」と言ってそれぞれの寝室に向かうと、「大丈夫、私は明日もこの家族の一員だ。」と安心することができた。

コロナウイルスが流行し始めてからは、挨拶をするときスキンシップはしてはいけない、と政府から警告された。

しかし、家族との挨拶だけは、毎日欠かさず、一人一人と行った。

この挨拶は、きっとチリ人にとっては当たり前で、習慣の一部に過ぎないだろう。

しかし、私にとっては、言葉では上手く伝えられないことを伝えたり、文化の違いにより相手の様子からは察せないことを感じられたりする、“愛のコミュニケーション”であった。

国際連合の発表している世界幸福度ランキング 2020 では、各国の国民が「どれくらい幸せと感じているか」を評価した調査に加えて、GDP、平均余命、寛大さ、社会的支援、自由度や腐敗度といった要素を元に幸福を計って作成されている。

日本が 62 位という結果なのに対し、チリは 39 位であり、ラテンアメリカの 21 の国々の内の 15 国が日本よりも上位にある。（\*参考文献）

ラテンアメリカの国々では、チリとほとんど同じ挨拶をするということから、発展途上国や新興国が多いラテンアメリカの国々が、日本よりも幸福度が高い理由は、彼らが自分に自信を持って生きているからだ、と私は考える。

チリでの生活には、愛が溢れていた。

家族や友達、先生、近所の人などと、日常的に愛をたくさん伝え合う。

そのような環境の中で、チリの人々は皆、自分が周りの人に愛されているのだということを感じ、自分に自信を持って生きている。

私自身、毎日多くの人に無償の愛を与えてもらった。

そのおかげで、自信を失った時も、不安を感じた時も、再び立ち直って前向きに成長することができた。

日本人は、あまり愛情を言動に表さない。それが日本の美しい文化の一つでもある。

しかし、言葉や行動で愛情を伝えることの大切さを多くの人が認識して生活すれば、日本は、国民が自分に自信を持ちながら幸せに暮らせる、さらに良い国になることができるのではないだろうか。

一人一人の“愛のコミュニケーション”がやがて、今隣にいる人をさらに幸せに、そして世界中の人の日常を愛に溢れた素晴らしいものに変えてくれるだろう、と私は確信している。

私の日本の父は、私がチリのマザーから受け取るメッセージにいつも「cuídate mucho mi niña hermosa(元気でね、私の可愛い子ちゃん)」と書いてあるのを見て、「どうして毎回、愛情をそう長々と送ってくるのか」と理解できないようだ。

しかし私は知っている。

この表現を毎回送ってくれるおかげで、一ヶ月半しか過ごせなかったけれど忘れることのない、チリの皆との愛情を、地球の裏側という遠い距離でも感じ合うことができているのだ、と。

\* 参考文献

World Happiness Report 2020

<https://happiness-report.s3.amazonaws.com/2020/WHR20.pdf>